

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276200207		
法人名	ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホーム サンシティ掛川 (1F、2F ユニット合同)		
所在地	静岡県掛川市杉谷南1丁目15番地の13		
自己評価作成日	平成25年1月31日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2276200207-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心で安全な生活が送れるよう職員一丸となり支援するように心掛けている。職員は利用者や家族との馴染みの関係を築き、大切にし利用者が安全で安心して暮らせるように支援している。又地域の祭典・防災訓練の参加・ご近所での買い物・散歩時ご近所との挨拶・日々の会話を通じ、地域との交流の場を増やし利用者が地域の一人として生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東名高速掛川IC近く、レジャー施設つま恋にほど近い新興住宅地の中に事業所は位置しています。地区の秋祭りでは山車が立ち寄り、また地域の防災訓練には利用者も参加しており、双方向の関わりがあります。特に「サンシティ夏祭り」では、地域のから60名程が集まり、かき氷、福引きなどで交流し、利用者の喜びに繋がるなど、地域の中で確実に存在感が増しています。マジック、舞踊などボランティア訪問や習字教室など「楽しみ」は隣接デイサービスへと出かけ、またデイサービスの利用者がハーモニカ演奏に来てくれて、皆で歌を唄って懐かしむなど、スケールメリットを享受した活気ある生活が営まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝朝礼にて理念を唱和し、共有するようにしている。	理念は事務所に掲げられ、毎日の朝礼時に唱和しています。心身の状態変化を速い段階で察し、大事に至らずに済んだ事例など、利用者を注意深く見ている姿勢に理念の浸透が見られます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の祭り・施設の夏祭り時、地域の参加者に接待を行っている。地域の防災訓練にも職員・利用者共々積極的に参加している。	自治会に加入しています。近所から野菜のおすそ分けがあるほか、駐車場の花壇の世話をしてくれることもあり、また園児が散歩途中に立ち寄り、一緒に散歩することあるなど、交流が進んでいます。専門学校生徒の実習から、隣接デイサービスへの就職にも繋がりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今現在は行っていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会合で話された事については参考意見をサービス向上に目指して活かしている。	民生委員や家族の参加があり、隔月開催が叶っています。会議では外出レクリエーションの情報をもらい、参加者が外出に協力を申し出てくれるなどの意見がもらえています。ほかにも具体的、かつ積極的に関わろうとの意見が書面からも確認されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催するサービス提供連絡調整会議に参加し、担当者とは協力関係が保たれている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が毎回参加しています。また、市職員も必要に応じての参加があり、事故報告など相談事でアドバイスがもらえています。年に5回あるサービス提供連絡調整会議に管理者が毎回出席しています。	新たな制度として、介護相談員の積極的活用が利用者の安寧に繋がることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一同「身体拘束」を理解し、身体拘束を行わないケアを心掛けている。どうしても行わなければならない場合は本人と家族に説明を行い理解して頂いている。	身体拘束ゼロ宣言をしていて、玄関施錠はありません。外出の機会を多くすることでストレスケアを図ったり、落ち着くまで伴隨するなどの取組みが功奏して徘徊はなくなっています。今後、関連する研修に積極的に参加し、さらに理解を深めていきたい考えをもっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、学ぶ機会を持ち虐待について徹底していきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらの事を学ぶ機会はありませんが、機会があれば持ちたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時ご理解されるまで充分説明を行い同意書にサイン・捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階入り口に「意見箱」を設置し、何時でも意見を投函できるようになっている。家族の面会時、電話等のご意見を職場会議に反映するようにしている。	毎月発行の「サンシティ掛川だより」は写真満載で家族に送られ、日頃の状況や行事がわかり好評です。家族の面会は月数回程度あり、毎日訪れる家族もいます。家族会はありませんが、行事の家族参加は多くあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で職員の意見や提案をできる限り反映できるようにしている。	会議では一人ひとり発言の機会を設けていて、言い易い雰囲気を作っています。職員の状態変化時には個別面談を行い、メンタルケアにも配慮しています。勤務シフトや待遇面などの要望が挙がっていて、エプロン統一は意見が反映された一例です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員意見を聞き、勤務状況を把握し、一人ひとりのモチベーションをあげてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修会に参加し職場内にて伝達研修を持ち参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会に参加し交流を図りサービスの向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との会話の中で困っている事、悩んでいる事をくみ取り不安を取り除くと共に安心を確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望等に相談できるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている事を話し合いその都度対応努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理はせず出来る利用者と食事の準備や片付け、掃除、洗濯物たたみなど職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の時間のある時は面会に来ていただき、情報を共有出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に買い物に行ったり、家族、知人等面会に来られやすい雰囲気作りと馴染みの関係を継続していく支援をしています。	知り合いや同僚だった人の訪問があり、家族とは外食や墓参りに出かけています。以前からの馴染みの美容院に行くことはなくなりましたが、現在は訪問美容が馴染みになっています。家庭菜園の趣味を継続している人の花を摘んでは旦那さんの位牌に手向ける利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物のたたんだり、食事の配膳をしたり、カラオケをしたり、散歩、ドライブに行ったり利用者同士関わりあえる様支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者の家族より相談があった時には相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や生活していく中から個人の要望を出来る限り実現方向に努力している。聞き取れた内容は申し送りノートに記載し職員同士周知している。	利用者の得意だった分野や生活歴の把握で声掛けのきっかけを掴み、会話から隠れた思いや意向を表出させる努力をしています。回想で表情が和む利用者もいます。そのほかに、以前利用していたデイサービスに出向いて聞き取りも行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの生活歴などフェイスシートに記入していただき、家族や利用者の話を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、一人ひとりの心身の状態、行動を観察して本人のペースに合わせた暮らしの支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で利用者一人ひとりの生活の状況を話し合い、作成や見直ししている。	利用者担当がアセスメントし、ユニットミーティングで皆の意見を集約していて、ケアマネージャー兼務の管理者が介護計画を作成しています。介護計画は原則6ヶ月に1度見直すほか、変化があればその都度見直しています。家族には書面にての署名捺印で了解を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入しケア内容を職員間で共有しその時々ケア、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望や意向を把握しサービスするように努めている。その日の様子でドライブ等行われることが多い。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物時に地域の方との挨拶や会話・ボランティアによる歌や踊りの観劇を通じ、暮らしに豊かさが創出できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々利用者が適切な受診を受けられるように支援している。利用者はかかりつけ医を持ち受診の際には職員が付き添う。又医師と家族が連携を保つように支援している。	協力医はありますが、殆どの利用者は家族の付き添いで、以前からのかかりつけ医を継続しています。家族が行けない場合には職員が受診介助しています。家族の受診支援にはバイタルや近況情報のコピーを持参してもらい、適切な診療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康面での情報や気づきを伝え看護師からアドバイスを受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように、家族と連絡を取っている。入院時なるべく面会に訪れ、医師や看護師と話す機会を持ち情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアに関する同意書を家族から頂いている。こちらからの十分な説明を行うと同時に、家族の意見も充分聞いている。	家族の強い希望で実績が2件あり、いずれも看取りケアに関する説明をおこない、同意書を交わしています。1例目には動揺があったものの、2例目にはスムーズな対応ができ、職員の自信にも繋がりました。今後もケースバイケースで取り組んでいく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えマニュアルを作成している。急変時、事故発生時には対応マニュアルの手順にて実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の防災訓練を年2回(5月・11月)実施。又地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練を消防署に届け出て、立ち合い指導のもと行っています。地震による厨房火災を想定し、消火器と歩行困難者の階段降下訓練を中心に行っています。地域の防災訓練には利用者も参加していますが、事業所内での防災訓練に地域からの参加はありません。	水の備蓄はありますが備蓄食糧が不足するため購入を予定しているとのことで、早期の実現を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者がしたい事に対し否定的な言葉かけをしないようにしている。	馴れ合いにならないためにも呼称にはさんづけを基本としています。利用者がしたい事に対し否定的な言葉かけをしないようにして、入浴が済んだ利用者が再び「入りたい」と言えば、自然に対応しています。自分が言われて不快に思う事は言わないようにと職員を指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「しましょう」こちらから決め付けた言い方はせず「どうしますか」など本人が選択できるように声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の過ごし方を尊重し強制すること無く支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を着替える時は利用者と一緒に選らんでいる。髭剃りは各自行うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好物も取り入れ、食事の盛り付け、片付けは利用者・職員と一緒に行う。食事は利用者と職員が雑談しながら一緒にテーブルで摂る。	職員に見守られながら、共に取る食事には、会話あり、笑いありの楽しい時間となっています。献立を作って、朝夕の食材は業者に発注し、屋はデイサービスから届けられています。年2回の寿司外食、おやつのお酒、サツマイモなどが食への楽しみを膨らめています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲水は好みの物を工夫(紅茶・砂糖水)して。食事摂取量を把握し食事が出来ない利用者には一部介助の支援を行う。薬・アレルギーによって食べていけない物・食事量・水分量に制限のある方は気をつける。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯みがき・うがいをを行い、就寝前は入れ歯洗浄・管理をおこなっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄パターンを把握し声掛け、誘導している。又記録簿を目をどうし、声掛け・支援している。	排泄は記録簿で排泄パターンを把握し、声掛け誘導で失敗の少ない排泄に繋がっています。1年くらいの間に紙パンから布パンに改善した例もあり、自立排泄できる利用者が数名います。また、こまめな誘導でパットの使用量も減り、家族の負担軽減に貢献しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や飲食物の工夫や、軽い運動や散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	班に分けて入浴を行っている。希望があればその都度入浴できるようにしている。	週2〜3回をめやすに毎日湯をはっています。毎日の入浴希望にも対応し、1対1介助のゆったりとした入浴は、職員との間に会話の花が咲いています。脱衣所のパネルヒーターで温度差に留意し、また入浴嫌いな利用者には下着替えで誘導し、入浴後「気持ちいい」の声を曳き出しています。	入浴後の足拭きマットを個々に対応するなど、入浴に係る場面での感染症対策について今一度話し合われることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調と及び状況を見極めその人に合った支援をしている。又安眠できるように布団干しをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示・薬の説明書を見て理解し、服薬支援をして症状の変化の確認に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケにて歌を歌ったりカレンダー塗りをしたり本人の趣味を活かしたり、月・1・2度の行事に参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所の公園に出掛け地域住民との交流を楽しんでいる。また普段いけない所は年間行事計画に基づいて実施している。	近くの公園に良く出掛けており、時にはスーパーやドラッグストアに足を延ばすこともあります。ドライブでは、初詣、花鳥園、花見など、ほぼ毎月の外出があり、季節を感じる取組がみられます。家族では出来なかつた外出が叶ったと家族からは大きな感謝の声が届いています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所金庫で預かっており、本人が買い物をした時は一緒に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はいつでもできるように支援している。施設便りを毎月家庭に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は利用者と一緒に掃除をしたりして、常に清潔を保つようにしている。季節の花を活けたり、熱帯魚を飼ったりして居心地良く工夫している。	共用空間には季節の花が息づき、利用者に人気の熱帯魚が優雅に泳ぎ、穏やかな空気が流れています。掃除は毎朝おこない、手摺、トイレは2回以上の清掃と消毒をしています。空気清浄機も活躍し、温度湿度計も設置され、利用者体感で温度管理がなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間でテレビを視聴する人、ソファで居眠りをする人、気の合った同志で雑談するひと、思い思い自由な行動をしているのでその安全を見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は以前の暮らしと変わらぬ様配慮し、使い慣れた家具、仏壇、冷蔵庫、家族の写真等を持ち込み工夫している。	カーテン、ベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられていて、すっきりとした中に生活感も垣間見える居室です。棚には、テレビ、生花、鉢植え、家族写真など、思い思いの物が置かれています。ローテーションで蒲団干しとシーツ替えが行われ清潔が保たれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し安全に口腔ケアやトイレに行ける様にしている。		